

共働きを目指す若い世代に伝えたいこと・・・

1. 若い世代の女性に対して・・・

- ・ 共働きでも、子供がいない場合には、それほど大変な負担が生じるわけではない。
- ・ 結婚は重要なイベントには違いないが、結婚よりも出産こそがほんとうの人生の出発点となる。
- ・ 母親から乳離れしている男性を夫に選ぶこと。かつ、息子から子離れができている姑の息子を夫に選ぶこと。
- ・ 自分の家族に関することを話題にできる男性を夫に選ぶこと。自分の両親・兄弟に興味がある男性ならば、将来に自分の妻や子供にも興味を持ち続けると期待できる。暖かい家庭の雰囲気は、親から子供へ代々受け継がれていくものである。
- ・ 結婚してから夫を再教育する。結婚後に再教育が可能な男性を夫として選ぶ。
- ・ 夫の再教育には長い時間がかかる。気長に構えるべきである。
- ・ 夫の再教育は、男性としてのプライドを刺激して、要所要所で誉めるのが重要である。
- ・ 男はプライドで生きている動物である。社会的ヒエラルキーでランク付けされている猿山の猿である。よって、夫のプライドを過度に傷つけるような発言は避けるべきである。
- ・ 女性は我が子が胎内にいるときから存在を自然に意識するのに対して、男性は誕生するまで実感が沸かないものだと理解すること。
- ・ 結婚する前から、結婚後、出産後、育児と仕事の両立に関して、おおよその見通しをつけておく。(例えば、母親・姑による育児の手助け、居住地の選定、保育所・学童保育への入所、かかりつけの小児科医・・・など)
- ・ すでに子育てを一段落させた、先輩の共働きの女性と仲良くすること。時節アドバイスを仰ぐこと。ときには、子育てグッズを貰えることもある。
- ・ 共働きの女性どうして仲良くすること。可能ならば、夫どうしも仲良くさせること。
- ・ 育児の支援に関して、妻の母の貢献度が非常に大きい。ただし、妻の母が健康で元気であることが必要条件である。その点で我々は幸運であったが・・・
- ・ 姑の活用も重要であるが、嫁と姑が長い期間一緒に生活すると、互いに気を遣うので疲れるようだ。
- ・ 家事、育児で完璧を目指さないこと。ある程度の手抜きも重要。また、夫の家事の手抜きを”ある程度”は認めること。(ある程度ではあるが・・・)
- ・ 仕事や育児がうまくいかないときも、なるべくいらいらしないこと。いらいらしたときには、ひとりで溜め込まないで、遠慮無く夫にぶちまけること。
- ・ 子供の誕生から小学校入学までの6年間は、非常に大変であるが、それ以後は徐々に負

担は軽減する。また、第2子の育児は第1子のときよりもすこし楽になる。

- ・ 第2子の誕生直後は、第1子が寂しそうな表情になるのでケアすること。ただし、寂しげな表情は数ヶ月すると回復する。
- ・ 出産、育児後の職場復帰はなるべく早いほうが良い。仕事から遠ざかる期間が長くなるほど、仕事の感覚を回復させるのが難しくなる。
- ・ 子供がひとりの場合に、自分の関心の全てをひとりの子供に集中させないこと。過度な期待を抱かないこと。
- ・ 子供は天からの授かり物である。不妊治療も重要だと思うが、たとえついに子供ができなかったとしても、決して自分たちを責めてはならない。

2. 若い世代の男性に対して・・・

- ・ 職業生活は重要である。男性はしばしば職業が人生の全てだと思いがちである。しかし、家庭も大切であることに気づくべきである。
- ・ 婦唱夫随。特に家庭に関して、妻の言うことには”だいたい”従うこと。
- ・ 犬も食わない夫婦喧嘩を長々と続けないこと。夫婦喧嘩は、夫の降伏か自然消滅で終わらせること。特に幼い子供の前で夫婦喧嘩をしないこと。喧嘩終了宣言の合図を決めておくが良い。
- ・ 夫婦喧嘩中の妻の発言（暴言）をまともに受け取らないこと。一方、夫の発言は、妻にまともに受け取られ、後々まで記憶されるものである、と覚悟すること。喧嘩中であっても、発言には慎重に言葉を選ぶこと。
- ・ 家事や育児に対して相当に努力したつもりでいても、妻にはろくに感謝されないのが普通であると思っていること。
- ・ 夫が家庭に対して、強い関心を持っていることを妻や子供に示し続けることが重要だと思うこと。
- ・ 職場のストレスを家庭に持って帰らないこと。帰省する電車の中で仕事のスイッチを切ること。
- ・ 妻が子供を叱っているときは、夫は陰で子供を慰めること。子供の逃げ場を作ること。子供を両面から挟み撃ちにして叱るのは、よほどの悪いことをした時だけにすること。